

富士山の火山活動解説資料（平成 26 年 7 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものではありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

萩原（富士山山頂の東南東約 18km）、朝霧（富士山山頂の西約 14km）、富士砂防事務所（富士山山頂の南西約 17km）に設置してある遠望カメラによる観測では、今期間、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。

深さ 15km 付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS^注連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

注）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 富士山 山頂部の状況
（7 月 30 日 萩原遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月分）は平成 26 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

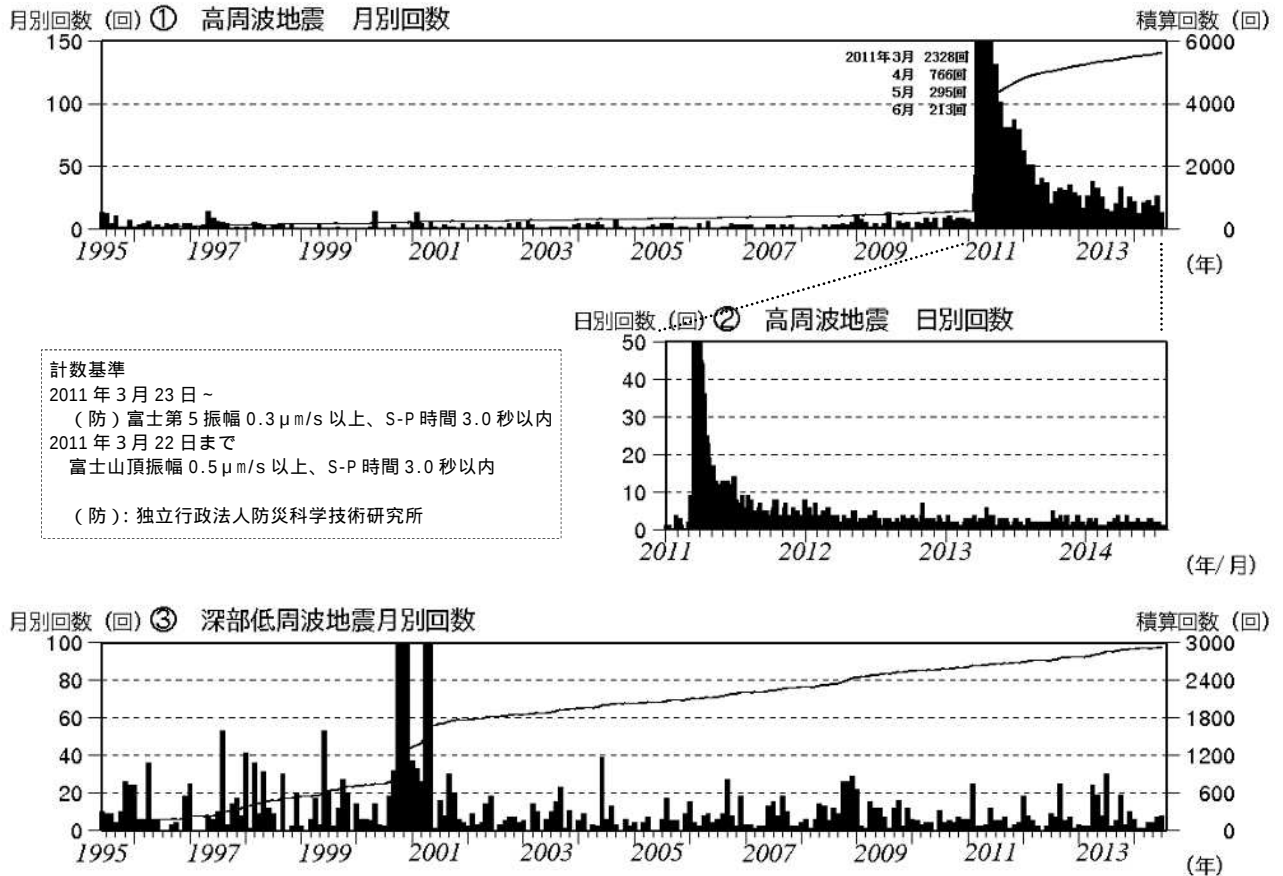


図2 富士山 月別及び日別地震回数（1995年6月1日～2014年7月31日）

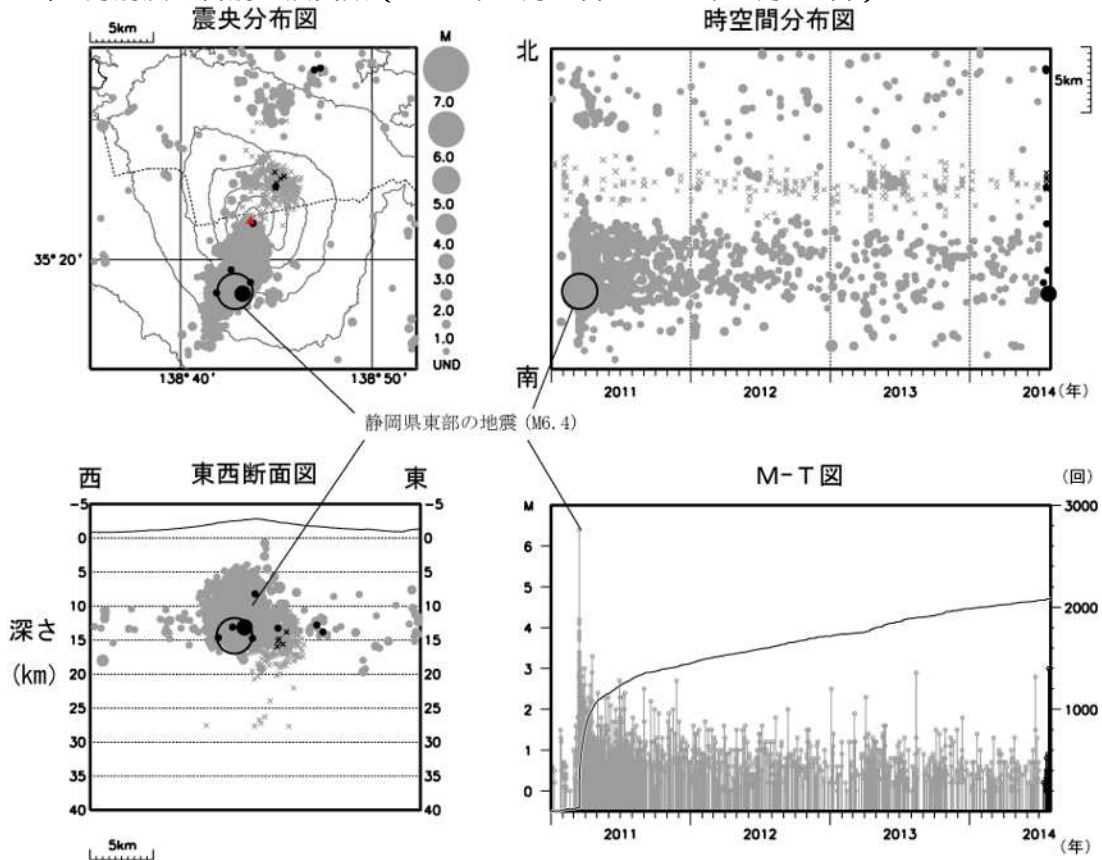


図3 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2014年7月31日）

● : 2011年1月1日～2014年6月30日 ● : 2014年7月1日～7月31日
× は深部低周波地震を表します。M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

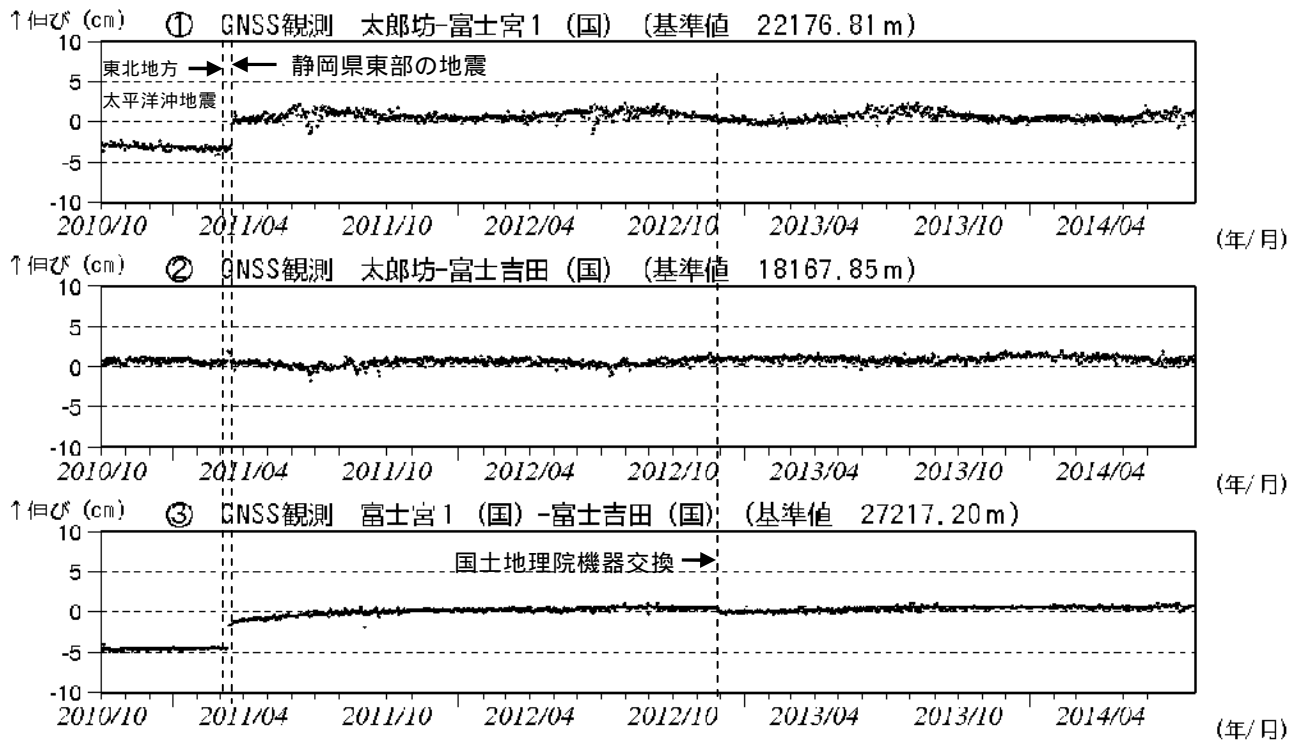


図4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日～2014 年 7 月 31 日)
(国): 国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震の影響により、データに飛びがみられます。

～ は図5のGNSS基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

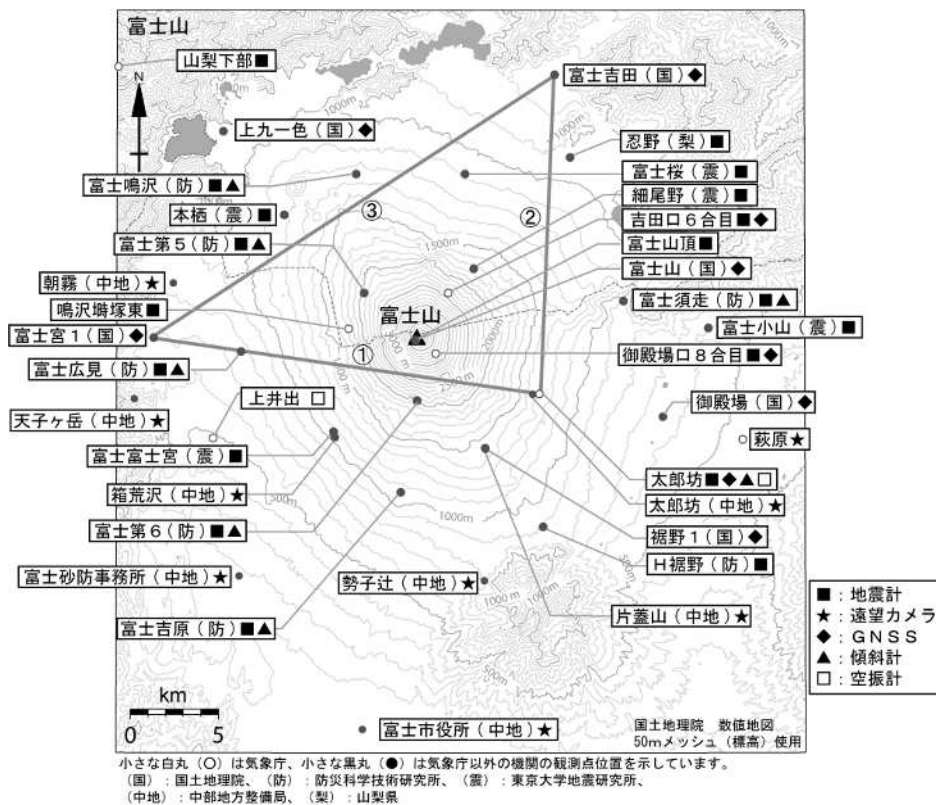


図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線 ～ は図4の ～ に対応しています。